

第303回  
株式会社テレビ新潟放送網  
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成25年11月25日（月）午前11時00分  
2 開催場所 テレビ新潟 会議室  
3 委員総数 8人 出席委員8人

出席委員

|       |     |        |      |
|-------|-----|--------|------|
| 豊口 協  | 委員長 | 大矢 純一  | 副委員長 |
| 佐野 晃之 | 委員  | 藤井 敬久  | 委員   |
| 碓井 真史 | 委員  | 大久保千春  | 委員   |
| 田村 明子 | 委員  | 尾畑 留美子 | 委員   |

会社側出席者

|                      |             |
|----------------------|-------------|
| 代表取締役社長              | 室川 治久       |
| 常務取締役（編成・報道・制作・国際担当） | 水島 敏夫       |
| 編成局長 兼 放送番組審議会事務局長   | 竹石 尚史       |
| 報道制作局長               | 稲田 裕之       |
| 制作部長                 | 小木 裕介       |
| 報道部長                 | 羽田 朗        |
| 事務局                  | 紫竹 聡子 水野 明子 |

## 4 議 題

### 1) 番組合評

「届け！明日のリングへ ～里村が作った“仙女”という情熱～」

〔放送：平成 25 年 10 月 26 日（土） 11:00～11:25 放送〕

（説明：報道部長 羽田朗）

### 2) 会社報告

- ・ 10 月の視聴者の意見 (報告：番組審議会事務局)
- ・ 定例の報告等 (報告：番組審議会事務局)

### 3) その他

## 5 審議の概要（委員の意見）

会社側より、この番組は、新潟市出身の女子プロレスラー・里村明衣子さん率いる女子プロレス団体を舞台に、女子プロレス界の現状や危機感を描いたことが説明された。次世代の若手を育てバトンを渡すために、悩み、試行錯誤する彼女たちの姿は、日本社会の「世代交代」という普遍のテーマにも通じる。里村さんは、1995 年に大手プロレス団体のガイアジャパンに入門、その後頭角を現し、トップレスラーになり、今もなお実力派として認められる存在。しかし時代とともに団体が解散したり、大怪我を繰り返したり、花形スターと言われた女子プロレスラーだが、時代とともに世代交代、また入門者数も激減して、

かつての大手団体で活躍したベテランの存在に頼りながら、興業を続けなければならぬ現状がある。世代交代の必要性は、リング上のトークでリアルな危機感として見せたほか、ナレーションで、業界の現状をわかりやすく伝える工夫をした。

- 番組タイトルに里村さんの名前があるが、番組を見ていると主役が誰なのかわかりづらかった。
- 「世代交代」がテーマということだったが、あまり伝わってこない気がした。プロレスファンなら、里村さんの素晴らしさが理解できていると思われるが、一般の視聴者には、どれだけすごいプロレスラーなのか、わかりづらい。
- 昨年放送の前作で里村さんの番組を見たときは、人間・里村さんの故郷や、プロレスへの情熱を描いていて共感できたが、今回は、プロレスそのものにあまり興味がないせいか、「世代交代」の危機感を見ても、感情移入が難しかった。
- 女子プロレスのブームが去った後は、プロレス界をどうしたいのか、彼女たちがどうしていきたいのか、今の思いをもっと知りたかった。
- リングでの女性の暴力的シーンは苦手を感じたが、登場する人物たちが魅力的で、とても面白かった。
- 女子プロレスのルールが、よくわからないので、花月さんに厳しい言葉が浴びせられても、どうしてそうなるのか、仮説を立てながら見るしかなかった。
- 現役悪役レスラーという立場上、アジャコングの本当の思いは聞けないのだろうと思うが、知りたくなった。
- 悪役レスラーのアジャコングの存在感に圧倒されるとともに、

彼女の若者へのメッセージが、力強く賢く、中高年にも共感されるように感じた。

●若手が、次代を担おうと頑張っている姿は、清々しく見る事ができたが、主役が里村さんなのか花月さんなのか、わかりづらかった。世代交代の若手に、里村さんを加えて盛り込もうとしたのは苦心されたのではと感じた。

●苦戦している女子プロレス界について、減っている選手の数や観客動員数、興業団体数などを紹介してくれたら、よりわかりやすかった。

●里村さん自身の戦いに加え、次代を担う若者に対する親心の思いも感じた。

●花月のシーンについては、彼女の戦いや成長について、短時間の中でまとめたのは妥当だった。戦いのシーンだけでなく「ベテランに守られているから存在できる」という花月の発言を取りあげるシーンがあったが、現代の若者にもぜひ見てほしいと思った。

●十文字姉妹の取り上げ方が、中途半間な感じだった。彼女たちのめざす夢を引き出すような質問やセリフがあってもよかった。

●里村さんの新潟との関わりを考えると、頑張る新潟県人ととらえてのメッセージがもっと発信できると良かった。

●番組タイトルは、「里村が作った」という過去形でなく、現在から未来を感じさせるようなタイトルがよかった。

●選手たちが、将来どうしたいのかというのがわかりづらかった。

●ベテランがやめたら存続が厳しいという危機感が、もっと伝わってくるような内容、あるいは、もっと応援するような内容でもよかったと感じた。

●里村さんが、現役を続けながら、後進の指導もしなければなら

ないという大変な状況。先が見えない状況がよく伝わってきた。

●花月のような女性が、将来の女子プロレス界を背負っていきけるのだろうか、番組でこの現状を見たファンや視聴者は、危機感を持ったのではないか、そういう点でこの番組が問題点を明確に打ち出したと感じた。

## 6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

11月……88件。

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成25年10月28日)から昨日(平成25年11月24日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

## 7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回、第302回審議会では、「新潟県黒龍江省友好30周年 好!好!中国ハルビンに行こう!!」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

## 8 今回の第303回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議

事概要の書面を準備しています。

- 2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。
- 3) インターネットのT e N Yホームページに議事概要を掲載します。

## 9 参考事項（委員への配布資料）

- ・ 10月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・ 10月の単発番組制作一覧
- ・ 民間放送新聞（11/3、11/13）
- ・ B P O報告（No.129）

以上